

2007くらしのサポーター通信No.21

2008.2発行

ハイライト:

- 今月のテーマ : 食の安全・安心に関する諸問題～消費者のご意見・ご要望～
- 交流コーナー : [くらしのサポーター研修会報告](#)
: [コラム“さんばいづけ～三杯漬～”](#)

食の安全・安心に関する諸問題について

消費者のご意見・ご要望

1 行政への意見・要望

特に、行政の対応についてや輸入食品の監視体制の強化、事業者への指導検査体制の強化、罰則強化についての意見が多くありました。

<40代女性>

国に対しては、この食の問題をきっかけにして、是非消費者行政の一元化をすすめてほしい。行政は国民（消費者）の幸せを実現させるためにあるという本質に立ち戻って考えれば、消費者行政が何よりも重要なのは明々白々である。県に対しては、JAS法、食品衛生法など法改正が次々となされる昨今、県の主要産業に対しては特にきめ細やかな指導が徹底されることを望む。

<50代女性>

いくらチェックを厳しくしても無駄。悪徳業者は、そのスキを狙うから。食の安全・安心は人の生死にかかわるもので、県独自の条例により、罰則を厳しくして欲しい。

<60代女性>

検査回数、事業所視察等を増やして、監視を厳しくお願いします。

<70代女性>

「冷凍ギョウザ」等のレトルト製品については特に輸入時点でもっと厳しくチェックするべきである。椎茸や野菜類の残留農薬の場合と違って、そのまま（解凍して）人の口に食するものなので厳しいチェックをお願いしたい。

2 事業者への意見

事業者には、利益だけに走らず、法令遵守、表示の適性化を行って、消費者重視で安全で、品質の良いものの提供を求める声が多くありました。

<30代男性>

利益追求型の経営のみでは、日本社会では生き残れない。本当に、安全で安心の、消費者側に立ったニーズの利いた商品、食品を生産、流通して欲しいのです。コンプライアンスの徹底もすること。

<40代女性>

よい品を生産・加工すれば、必ず、消費者は購入してくれるんだという自信を持って欲しいと思う（特にわかめ業者さんに）。今の世相がどうであるのか、消費者が何を重要視しているのかを敏感に感じ取る感性が必要であると思う。

<50代女性>

経営者、従業員も同じ消費者なので、モラルを大切にしたい。価格については、安かろう、悪かろうにならないよう。

<60代女性>

経済優先しない。行政にまかせないで、自分達で管理、監督する。真に良い物は売れる。組織化し全体責任とする。信頼を裏切った責任は重い。自分が食べることを念頭に置いておく。正式のコメントがすぐ出ない。

<60代女性>

ブランド化されているのに産地偽装することは消費者に対する裏切りである。加工業者間で監視する体制が必要だと思う。

3 消費者自身の行動等についてご提案

地産地消の推進、中国製品の不買、行政の適正な対応、消費者団体の運動を求める声が多くありました。

<50代女性>

表示や、新しい情報を得るなど、自らの努力をすると共に、できるだけ輸入に頼らないでも食糧の確保ができるよう地場の産物の生産、消費が進むよう、運動をしていく。様々な消費者団体が協力しあって、消費者の監視の目を広げる。

<60代女性>

特に食料品（生鮮品）については、「地産地消」を実行する。新聞、テレビ等で各種の情報を集め、価格のみで購入しない。できるだけ、スローフードを心がける。自己責任をもって、安全・安心を心がけるよう努力する。ことが起こって、行政、業者と言っても取り返しが出来ない事が多い。

<70代女性>

冷凍食品等は商品の見分けが出来にくいので、あまり安い物ばかりに走らないで、安かろう悪かろうだと思いますので商品をよく吟味して買いたいと思います。また、食品はレトルトを主に献立にするのではなく、なるべく自分で調理して家族に食べてもらうようにするべきだと思います。忙しくても、休日に作り置きして自分で冷凍するとかして、1週間の献立を立て、家族の食の安全を守るべきだと思います。手軽に走ると、出来ている食品ですませてしまうことになります。

4 食料自給率向上、環境、協働を望む消費者

食の不安から、消費生活全般について様々な見直しを求める意見が多くありました。食料自給率向上や日本製品の購買推進、環境に配慮した生活、協働などについてです。

<40代女性>

自給率が40%を切っているということは、本当に憂うべき状況であると感じている。安価である便利であるということを優先させずに、地産地消、フードマイレージなどを重視して、国の農業を育ててゆこうとそれぞれが感じなければいけないと思う。

<50代女性>

今年に入って様々なものが次々と値上げされて、くらしも大変な中、お金をかけないと安全・安心が得られないというのでは限界があります。安全・安心なくらしづくりの提案や助け合いなど、行政と消費者双方で探っていくことが必要だと思います。

<60代女性>

日本製品にもっと私たち日本人として目を向けよう。日本製品に対する関心を持つ。そして良い企業を消費者が育てる事が必要。

<60代男性>

食料の自給率が39%と大変な事になっている事を認識して、食品全般については、消費者自

身も、極力国内産の物を利用していくこと。これは農業を生き返らす事から考えていかないと、と思う。

5 「鳴門わかめ」不適正表示問題について

2/7に「鳴門わかめ」安心適正表示確立緊急対策協議会が開催され、生産者、商工団体、流通販売業者、消費者が意見交換を行いました。消費者の意見の一部をご紹介します。

- ・安全宣言の「安全」という言葉は、逆に不安をあおる。「表示適正化宣言」であろう。
- ・生産－加工－販売の信用の問題。嘘をついている人たちがこれから嘘をつかないと表明する。それを消費者にどう伝えるのか。行政は、このような取り組みを、どうバックアップ サポートするのが課題である。
- ・まず「安全」を明確にすべき。安全性を県が調べてから安心宣言すべきではないか。
- ・ブランドを守り育てるのであれば、鳴門わかめはこういうものであると宣言すればよい。
- ・農林水産省が進めているが業界で自主行動規約をつくり、その業界の規約に基づいた宣言をすればよい。
- ・消費者が頼れるのは表示のみである。認証のルールをつくるのなら早くしてほしい。
- ・消費者と生産者が一緒にいいものをつくっていくことが重要。製造加工業者の証明を、消費者とのつながりの中でつくってほしい。

くらしのサポーターの皆さんへ

中国産「冷凍ギョウザ」に関する健康被害情報については、緊急性がありますので、ホームページ、新聞、ニュース等の情報を注視してしてください。また、周りの方にも通信の情報を伝えていただくとともに、センター等へ相談をおつなぎください。

交流コーナー

くらしのサポーターのみなさんの質問や情報をお待ちしています。

くらしのサポーター研修会の開催報告

2月8日ホテル千秋閣でくらしのサポーター研修会を開催し、53名の皆様にご参加いただきました。

市民（ボランティア）講師養成講座、報告書の書き方、意見交換を実施しました。市民講師養成講座では、講師から、高齢者の消費者被害、例えば、演劇型オレオレ詐欺、8千万円ものリフォーム工事被害、SF商法被害などの事例についてや、クーリングオフの書き方、講師になったときに活用できる教材活用についての話しがありました。

また、鳴門わかめ、中国冷凍ギョウザの説明の後には、鳴門わかめや県の対応、情報の不手際等について、多くのご意見等をいただきました。

配付資料は、消費者Q&Aや相談窓口一覧、アンケート結果、くらしのサポーターカード（新版）などでした。

報告書をお出しいただく時期となりました。

記入の仕方などのお問い合わせは、左記（088-623-0612）までご連絡ください。

くらしのコラム

さんばいづけ～三杯漬～

スーパーに妻のお供で買い物に行った時に「三杯漬」の文字が目が釘付けになった。「さんばいづけ」の漢字を知り、それが数字で嬉しくなった。早速、語源を調べると面白い珍答があった。「三杯漬をおかずにすればご飯が三杯すすむ」というもので、面白いが嘘だ。詳しくは「三杯酢漬」の略からきているが、「小かぶ（蕪）、小だいこんなどの野菜を三杯酢に漬けたもの」である。三杯酢とは、「砂糖または味醂と醤油と酢を一杯ずつの割合で混ぜたもの」。私は、勝手に三杯漬を蕪（かぶら）だけと思い込んでいた。

蛇足だが、吉野川市の三杯漬の業者にお電話すると、丁寧に教えてくれた。季節が変われば大根を三杯漬けにしているとのことだ。

くらしのサポーター 三原茂雄

くらしのサポーター担当者より

現在、皆様には食に関する不安な情報が多く入っていると思いますが、消費者情報センターには、相変わらず、契約の消費者被害相談も多く寄せられています。くらしのサポーター研修のテーマにもありました高齢者被害の未然防止対策、見守りの必要性はますます増えております。

来年度もくらしのサポーターを継続していただくことにより、家族や周りの人に情報を広げ、安全・安心の消費者ネットを広められますよう、皆様のご協力を是非よろしくお願い申し上げます。